

柏市の野生きのこ等の放射能値

氏家 文憲

2011 年 3 月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、私が住む柏市を含む東葛地域が放射能汚染のホットスポットになってしまったため、従来市内の公園で採集し食べてきたアカヤマドリ、アミガサタケ、アラゲキクラゲ、エノキタケ、カンゾウタケ、キクラゲ、ナラタケ、ハタケシメジ、ヒラタケ、ムラサキヤマドリタケ、ヤマドリタケモドキなどの野生きのこ採集を自粛せざるを得ない状況が続いています。還暦を過ぎた今、私自身は何を食べても怖いものはありませんが、何より我が家の料理長が受け付けてくれません。野生きのこの家庭内持ち込み一切禁止を言い渡されてしまっただけでは如何ともしがたく、まあ食べるのは諦めるとして、柏市の野生きのこの放射能の値が一体どれ位なのか調べたいと思っていました。

そのような時、市民が持ち込む食品の放射性物質を無料で測定する取組みが柏市で 2012 年 4 月から始まっていることを知り、これ幸いとその制度を利用することにしました。但し、難問は検体量が少なくとも 700 グラム以上という規定です。余程まとまって大量に発生する種類でなければ市内の公園で一度にそれだけの量を採集するのは至難の業であり、結局測定できたのはアミガサタケ、エノキタケ、キクラゲ、ヤマドリタケモドキの 4 種類にとどまりました。それだけでは少し淋しいので、参考までに市

原市民の森で開催された観察会で採集したタマゴタケ、および自宅の庭で原木栽培したシイタケの測定値も記載してあります。

因みに、柏市が測定を依頼している検査機関は株式会社アトックス、測定器はゲルマニウム半導体検出器（ORTEC 社製 GEM-20P4-70 型）、測定方法はゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー（文部科学省 放射能測定シリーズ 7）、検出限界値は Cs-134、Cs-137 とも 10 ベクレル／キログラムです。

1. 検体概要と検査結果

(1) タマゴタケ

2012 年 10 月 8 日市原市民の森で開催された千葉菌類談話会第 66 回観察会で採集したもの。石突を除去し水洗した後、持ち込み指定日まで冷蔵庫に保管。

検査日 2012 年 10 月 11 日。

結果：セシウム合計 14 ベクレル／キログラム
（内訳 Cs-134：不検出、Cs-137：14）

(2) ヤマドリタケモドキ

2012 年 10 月 10 日柏市内の増尾城址公園で採集したもの。石突を除去し大きくカットして塩水に漬けて虫出し後、水洗い・水切りして持ち込み指定日まで冷凍庫に保存。

検査日 2012 年 10 月 25 日。

結果：セシウム合計 136 ベクレル／キログラム
(内訳 Cs-134 : 55、Cs-137 : 81)



(3) シイタケ

2010 年 2 月に種駒をコナラの原木に植菌し自宅の庭で栽培したもの。2012 年 10 月から 12 月にかけて発生したものを採集。石突を除去し水洗して冷蔵庫に保管。検査日 2012 年 12 月 19 日。

結果：セシウム合計 656 ベクレル／キログラム
(内訳 Cs-134 : 233、Cs-137 : 423)

(4) エノキタケ

2012 年 12 月から 2013 年 2 月にかけて増尾城址公園で採集したもの。石突を除去し水洗いして汚れを落とし冷蔵庫に保管。検査日 2013 年 2 月 14 日。

結果：セシウム合計 48 ベクレル／キログラム
(内訳 Cs-134 : 15、Cs-137 : 33)

(5) キクラゲ (一部アラゲキクラゲを含む)

2013 年 3 月から 4 月にかけて柏市内の増尾城址公園と手賀の丘公園で採集したもの。検体のうち 9 割は増尾城址公園産のキクラゲ、残りの 1 割は手賀の丘公園産のアラゲキクラゲ。石突を除去し水洗いして持ち込み指定日まで冷蔵庫に保存。検査日 2013 年 4 月 18 日。

結果：セシウム合計 47 ベクレル／キログラム
(内訳 Cs-134 : 15、Cs-137 : 32)

(6) アミガサタケ

2013 年 4 月 25 日手賀の丘公園で採集したもの。石突を除去し水洗いして冷蔵庫に保管。

検査日 2013 年 4 月 30 日。

結果：セシウム合計 79 ベクレル／キログラム
(内訳 Cs-134 : 30、Cs-137 : 49)



2. コメント

(1) 市原市民の森のタマゴタケは、2012 年時点で一般食品の放射性セシウムの基準値 100 ベクレル／キログラムを大きく下回っており、その後のセシウム自体の減衰 (Cs-134 の半減期は 2.1 年) や雨による土壌の洗浄効果を考えると、食に供しても問題なさそうです。

(2) 柏市内の公園に発生する野生きのこは、一昨年秋に採集したヤマドリタケモドキが基準値を超えており、昨春に採集したエノキタケとキクラゲ、アミガサタケは基準値を下回っています。但し、エノキタケとキクラゲは検体に水を目いっぱい吸収させて 700 グラムを確保したものの結果であり、そのままの状態では測定され

ば基準値を超えていた可能性が高いと考えます。アミガサタケも基準値を下回るとはいえ 50 ベクル／キログラムを超えており、まあ無理して食べることもなし、家庭平和のためにも当面採集自粛を続けることにしました。

- (3) シイタケはやはりセシウムを特異的に吸収するようで基準値を大きく超えています。千葉県ホームページを見ると、露地栽培の原木シイタケは 10 市(流山市、我孫子市、白井市、印西市、八千代市、佐倉市、千葉市、山武市、君津市、富津市)で出荷制限が、14 市町(市原市、野田市、成田市、四街道市、栄町、香取市、多胡町、匝瑳市、大網白里町、睦沢町、いすみ市、長柄町、長南町、木更津市)で出荷自粛がかけられたままです(但し、最新の 2013 年 12 月 26 日報告では上記のうち、市原市、睦沢町、長柄町、長南町は出荷販売可能な市町村に移行している)。南房総の山を歩くと、野生のシイタケが風倒木等に発生しているのを良く見かけますが、当面見ない振りを決め込み通り過ぎるのがよさそうです。

- (4) 林野庁のホームページを見ると東日本の 16 県で野生&栽培きのこの放射能を測定していることが分り、各県のホームページでその詳細を知ることができます。県により野生きのこの放射能測定に対する取り組みにはかなり温度差があり、青森県、栃木県、群馬県、埼玉県、長野県は熱心ですが、これらの県でも平成 24 年に比べ平成 25 年のデータは極端に少なくなっています。

残念ながら、千葉県のホームページには野生きのこのデータは一例もありません。生活に関わる栽培きのこの中心の測定になるのは仕方ありませんが、県内でも野生きのこの販売されている実態があり、きのこの狩りを趣味にする人も多いと思われます。なにも千葉県に限ったことではありませんが、行政機関、大学、研究所、きのこ同好会などがもっと組織的に連携し、網羅的・体系的に野生きのこの放射能汚染の実態と経年変化を明らかにできないものかと思うのは私だけでしょうか。□

■妻が椎茸だったころ

ISBN978-4-06-218513-4 C0093

著者：中島京子、発行：講談社 2013. 11. 22, ¥1,300+税

話題の映画「小さいうち」の作者の 5 編からなる『偏愛』短編集。書名はそのうちのひとつ。椎茸の学名 *Lentinula edodes* の *edodes* は、「江戸です」ではなく、ギリシャ語の「食べられる」という意味だが、そのギリシャ語表記の δ はおたまじゃくし、さらには逆立ちしたきのこに見える旨を生前ノートに書き残した妻の代わりに行くことになった料理教室。料理をしたことのない夫は、寿司用に持参することになった干椎茸の煮物に奮闘。教室の先生に、妻には椎茸の記憶があったと話をする、料理をする人は誰でもそうであり、素材だったころの記憶が蘇ると返される不可解。しかし、妻のノートを頼りに料理をしていくうちに、いつしか自分も椎茸だったころの記憶を思い出す。ちょっとシュールで奥深い物語。そのほか 4 編も独自の世界をかもしだしている。(公)

